

試験時間

60分

【注 意 事 項】

1. 試験監督(試験開始)の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題冊子は1ページから3ページまであります。
4. 試験監督の指示により、問題冊子と解答用紙に受験番号および氏名を記入しなさい。
5. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて試験監督に知らせなさい。
6. 試験終了後、問題冊子と解答用紙はともに机の上に置いておくこと。持ち帰ってはいけません。

近年、人里での野生動物による「鳥獣害」が全国的に拡大し、その対策が緊急の課題となっている。以下の文章は、北海道足寄町におけるエゾシカへの対策を紹介している。この文章を参考にして、鳥獣害を軽減するための方策について、あなたの意見を800字以内でまとめなさい。

津別町に隣接する足寄町は、町域の80%を山林が占め、林業と木質バイオマス生産で町おこしを図っている。そしてシカを柵によって排除するよりも、捕獲して処理・加工を重視する道を選んだ地域である。

シカを地域の経済的資源としてとらえ、1992年からエゾシカ有効活用検討モデル事業を実施した。町営でシカや馬の解体処理・加工施設を造り、地元だけでなく札幌や東京などへもシカ肉と馬肉の販売を手掛けてきた。また、商店街の空き店舗にカフェを開設し、レット・オープンを使ったシカ肉料理の販売などをおこなってきた。それは地元労働力の

雇用の場ともなってきた。さらに、その利益を、ハンターの雇用や農家への被害対策費に充てたのである。

しかし、全国的にも先進的であったこの事業は、①都市に遠く、肉の販売がむずかしい、②担当可能な者が高齢化し、後継者を得ることがむずかしい、③兵庫県で発生した、シカ肉の生食によるE型肝炎の発生といったことへの不安などによって、2006年、廃止に追い込まれた。現在、足寄町では、農業維持のために年間1500頭のシカが捕獲されているが、ほとんどは処理を専門とする会社に回されている。またシカ柵の設置は、農協が中心となって、各農家単位でおこなわれている。この足寄町の経緯を見ると、シカがいかに増大しているか、過疎化の波をどうするかといった困難のなかでの、苦吟の跡が感じられる。

出典：「鳥獣害—動物たちと、どう向きあうか」

祖田 修 岩波新書